

解 答

□

- 問一 (1) 誓〔う〕 (2) 縦断 (3) 宇宙 (4) 専門 (5) 憲法
問二 (1) た〔らす〕 (2) ほが〔らかな〕 (3) いど〔む〕 (4) じゅりつ (5) じゅんぱく
問三 (1) 目 (2) 鼻 (3) 耳 (4) 足 (5) 歯
問四 (1) なさる (2) うかがい (3) ごらん (4) はいけん (5) ぞんじあげ

□

- 問一 考える頭よ
問二 ウ
問三 A イ B ウ C ア
問四 ア
問五 その人だけ
問六 ウ
問七 反比例

□

- 問一 ウ
問二 血の気の失せた顔
問三 エ
問四 背筋
問五 非常に霊的な何か
問六 自分と一緒にではれんによくない思ったが、本当はそばにいたいという気持ち。
問七 ア
問八 イ
問九 ウ
問十 ア
問十一 イ

解 説

□

問七 筆者は「考える頭（＝思考）よりも機械的な知識をありがたがる」のではなく、「その人だけの個性的な考え（＝思考）」を持つことが大切だと主張しています。知識と思考の間では、「比例」ではなく「反比例」の関係が成り立つと考えることが適切です。

□

問六 「おらと一緒にいだら、いぐね」というキワの言葉から、自分と一緒にいたられんによくないと考えていることがうかがわれます。その一方で、「れんをしっかりと抱きしめている」という描写から、本当はれんのそばにいたいと思っていることがわかります。